

各関係機関長 様

病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報の発令について（送付）

このことについて、平成19年度病害虫発生予察注意報第3号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成19年度病害虫発生予察注意報第3号

農作物名 ダイズ、野菜類、花き類
病害虫名 ハスモンヨトウ

1 予報内容

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生時期 9月以降
- (3) 発生程度 平年比 多

2 注意報発令の根拠

- (1) 8月3半旬～4半旬に行ったダイズにおける巡回調査では、10株当たりのヨトウムシ類の寄生頭数は39.4頭（平年7.7頭）と平年に比べて多い。また100株当たりの白変葉数は4.6枚（平年2.2枚）と平年に比べて多く、今後もダイズでの被害が拡大すると予想される（表1）。
- (2) 8月の巡回調査時点では地域間に差があったが、9月1半旬のダイズ主産地における特別調査では、ダイズの29.4%の株に白変葉が認められた（表2）。
- (3) フェロモントラップへの誘殺数は、高原農業研究所（阿蘇市）、い業研究所（八代市）、阿蘇市波野で平年より多い（図1～5）。
- (4) 8月31日福岡管区気象台発表の九州北部地方1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の気温は高く、ハスモンヨトウの発生に好適な条件である。

3 防除上の注意事項

- (1) 初期の食害発生に注意するとともに、老齢幼虫に対してはどの薬剤も効果が得られにくいいため、白変葉（若齢幼虫の食害による白色化した被害葉）が認められたら防除を行う。なお、ほ場によって発生状況が違いため、防除適期を逃がさないようにほ場をよく見回り、早期発見に努める。
- (2) フェロモントラップによる予察で防除適期を判断する場合は、誘殺のピーク（発蛾最盛期）から7～14日後を目安とする。トラップ調査地点の多くでは、8月5～6半旬に誘殺のピークが認められている。
なお、発蛾最盛期となる平年の9月上旬の平均気温（熊本市）26.2 から予想される発育日数は、卵4.0日（63.69）、幼虫14.6日（227.27）である。
- (3) ダイズのハスモンヨトウに対する薬剤の殺虫効果については、平成14年7月4日付け発生予察技術情報第5号参照。
- (4) 抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (5) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を遵守する。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター生産環境研究所
病害虫研究室予察指導係（病害虫防除所）
担当：作本、福永
TEL 096-248-6490（内線460）
FAX 096-248-6493

表1 ダイズ50株における発生予察巡回調査

調査日	調査地点	頭 / 10株	食害株率	白変葉数
8/20	熊本市秋津	35.4	30.0	2.5
8/20	城南町杉上	228.0	88.0	22.5
8/16	大津町陣内	0.0	28.0	0.5
8/17	合志市黒松	0.0	20.0	0.0
8/21	阿蘇市一の宮	0.0	20.0	2.0
8/20	嘉島町六嘉	11.0	32.0	3.0
8/21	あさぎり町永才	1.6	40.0	2.0
平均値		39.4	36.9	4.6
昨 年 値		0.0	5.4	2.3
平 年 値		0.2	0.8	2.2

注) 白変葉数は100株調査

表2 ダイズ主産地における特別調査

調査日	調査地点	白変株率	白変葉数
9/4	熊本市秋津1	3.0	3.0
9/4	熊本市秋津2	30.0	57.0
9/4	熊本市秋津3	1.0	1.0
9/4	熊本市秋津4	2.0	5.0
9/4	城南町杉上1	13.0	16.0
9/4	城南町杉上2	24.0	52.0
9/4	城南町杉上3	17.0	30.0
9/4	城南町杉上4	4.0	13.0
9/4	嘉島町六嘉1	100.0	500.0
9/4	嘉島町六嘉2	100.0	500.0
9/4	嘉島町六嘉3	15.0	24.0
9/4	嘉島町六嘉4	7.0	8.0
平均値		29.4	117.7

注1) 調査は100株調査

注2) 白変株率は白変葉が認められた株率

注3) 嘉島町六嘉1、2は、ほとんどの葉が白変葉または葉脈のみのため5葉として算出した。

フェロモントラップにおける誘殺数

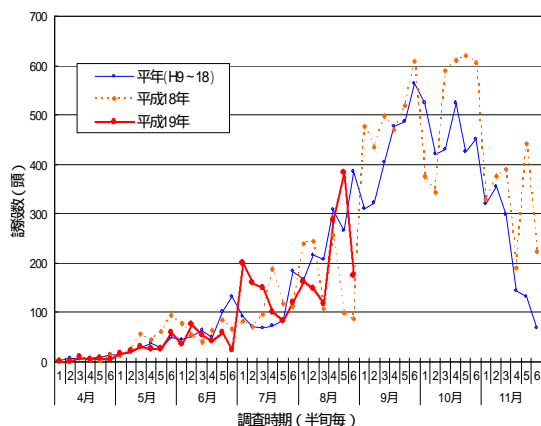


図1 生産環境研究所(合志市栄)

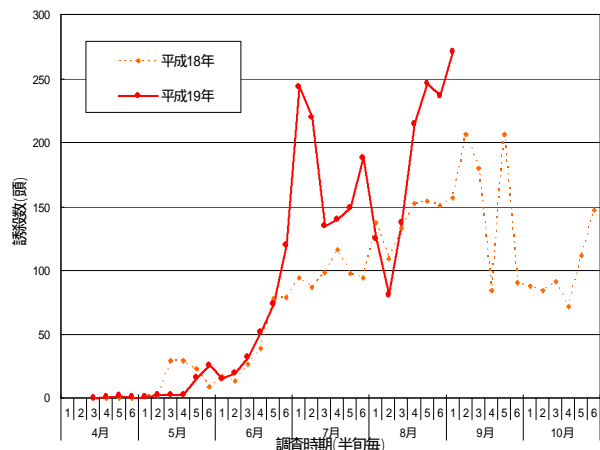


図2 高原農業研究所(阿蘇市一の宮町)

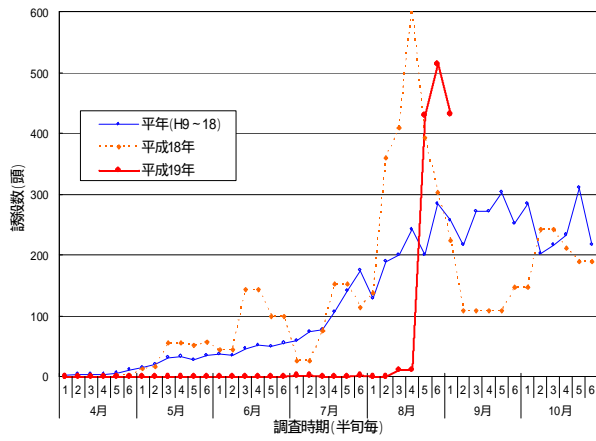


図3 い業研究所(八代市鏡)

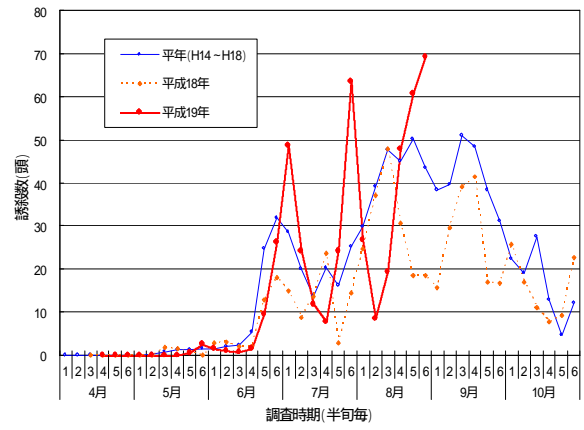


図4 阿蘇市波野

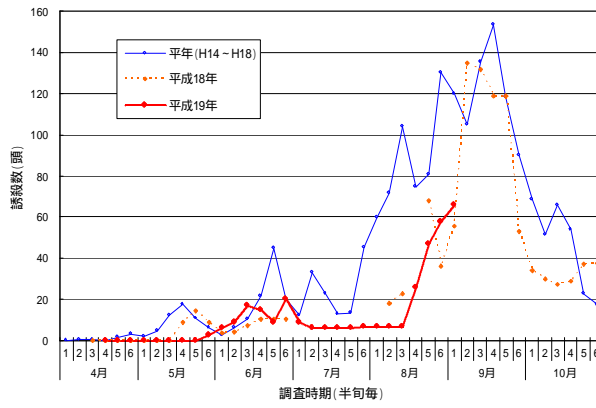


図5 山都町鶴ヶ田